

編集後記

ミロのヴィーナス，A4用紙，ハイビジョンテレビ，これらに共通しているものは？

「1：1.62」，短径：長径のバランスであり，これが「黄金率 (golden proportion)」といわれる．人間が最も美しい・心地よいと感じる魔法の比率．線分を a, b の長さで2つに分割するとき， $a : b = b : (a + b)$ が成立する比である．

実は，これと同じようなコンセプトが，われわれ外科医が作成する医学論文の「抄録」にも存在するのである．査読者は構成のバランスが崩れた抄録を不快に感じ，たとえよい知見が含まれた論文であってもその受理は覚束ない．私は国内外の医学雑誌で Editor を務めているが，抄録の質が悪い論文では全文を見る気がしない．抄録は全体のエッセンスであり，その良し悪しと論文の質とは見事に一致するからだ．論文全体の中で抄録の占める意義がとても大きいことを投稿者はぜひ知っておくべきだ．

そこで，抄録作成の『高山ルール』を提唱したい．抄録は「目的：方法：結果：結語」の4項目から構成されるが，その比率を「2：3：4：1」に定型化するというルールである．これは，私が長年にわたって試行錯誤した経験の教える「抄録の黄金率」である．全体のイメージとしては，目的を一文にまとめ，方法は結果を導き出すのに最小限の解析法に限定，結果は結語を導き出すのに不可欠なデータのみ限定，結語は一文で言い切る．この黄金率は，志賀直哉の短編小説にみられる「起・承・転・結」に相当する概念である．抄録は自然科学の要旨ではあるが，小説のように精密に構成され内容に自己矛盾がなければ，査読者それを美しいと感じつい受理したくなるのだ．

もちろん，医学論文では中身の優秀さが最も重要であることは論を待たないが，外見の見栄えも同じくらい重要であることを投稿者はぜひ肝に銘じて欲しい．

追記) 本記も高山ルールにしたがい，起(140字)：承(224字)：転(307字)：結(71字) = 2.0 : 3.2 : 4.3 : 1 で構成した．なお，総字数は742字であり，要求字数1,000字に対してあえて74%にとどめた．

(高山忠利)